
シリーズ 足の機能に障害がある人の靴 ⑪

オランダの事情

子供の足と靴を考える会 大野 貞枝

オランダでは、年間5万足の整形靴が製造されている。整形靴製造会社は、全部で約110社あり、その従業員総数は1000人余、年間生産額は6千万ユーロである。

2003年4月に東京で開催されたIVO世界会議から、整形靴について独自の道を歩むオランダの情報を紹介したい。以下は、オランダ整形靴技術者協会に所属するC.J.Rameauさんの発表による。

■整形靴のコスト削減

[歴史]

オランダは、1970年代の終わりごろまでは、整形靴はオーダーシューズを製造するだけであったが、それ以降はセミオーダーシューズのシステムを作りあげてきた。1980年頃、政府と健康保険業者から、整形靴のコストをどのように抑制し、妥当な値段内におさえられるかについての相談が、整形靴関連業界にあった。その背景には、高齢者人口の増大という現実がある。私たちは将来においても、整形靴に対する健康保険制度が確実に維持できるようにする共同責任がある。この時点での、すべての関係団体の創造性と協力により、これから説明するセミ整形靴プロジェクトは実現するに至った。



写真1 IVO世界会議で発表する
C.J.Rameauさん



写真2 オランダの伝統的競技のヨットコンペ
オランダの紹介のためにIVOの発表に使用した写真

[セミ整形靴]

セミ整形靴は、前記の目的のために特に開発されたラストによる機械生産の靴である。セミ整形靴のラストの特徴は次の通りだ。

- 特別の深さがあるトゥボックス
- 特別のヒール
- 高い位置でのインステップの締め具
- 高くて長いカウンター
- 足根部と中足骨部のための強いアーチサポート
- 個人のオーダーの足底挿板のためのフラットなインソール
- 安定したヒールと底
- アッパーもボトムも構造的にしっかりした靴
- アッパーに不必要なステッチや縫い目が無い
- 最小限の縫製で滑らかな仕上がりの裏甲
- これらの靴はアッパーとボトムの両方が、後で調整が出来るように作らねばならない。したがって、組み立て式で接着し直すことができるようにしなければならない。

またセミ整形靴は、以下のようにすべての関係者を満足させてきた。

(患者に対しては)

- 健全で適切な装身具で、短期間で引渡しができる。

(処方者に対しては)

- それが予防のためや、リハビリテーションの段階に関連した場合、短期間で引渡しできる。

(健康保険業者に対しては)

- コスト削減及び被保険者にケアを与えられる。



写真3 セミ整形靴

(整形靴技術者に対しては)

- 許容できる価格でケアを与えることができる。

ところで、セミ整形靴でコストを抑えることが出来たにも関わらず、次の点で総額が上昇している。

- 高齢者の増大でヘルスケアの需要が多くなっている。
- 糖尿病やリュウマチによる影響を受けている人が増加している。
- 処方医師との密接な共同作業。
この点において私たちの業界は他業界に参考とされている。
- 整形靴技術が患者の間で親しまれるようになっていく。
- 製作コストの上昇。

整形靴全体におけるセミ整形靴のシェアの10%から30%への拡大の必要性は、以下のようにさまざまな方面により感じられている。

(患者は)

- より多くのファッションナブルなコレクションから選択できる。

(整形靴技術者は)

- 処方により、実質的にフィットする靴のコレクションが得られる。

(健康保険業者は)

- より詳細にコスト削減が達成できる。

[システム]

さて、このセミ整形靴は、デジタルカタログにリンクするシステムで、入力するデータに基づいて選択する。選択基準は以下のとおりだ。

(足) 障害と、足のサイズと、具体的目的等

(ラスト) 長さ、幅、トウの高さ、ヒールの高さ

(靴) 材料とデザインの選択

このシステムは、ラストと機能性についてアドバイスを与えるのみならず、デジタル写真カタログを特色としており、より良い選択ができるように、患者に靴の写真も見せることができる。もう一つの重要な面は、保険業者には選択した靴が通知されるので、靴技術者がどのようにしてその靴の選択に至ったかを洞察することができることである。また、このシステムは整形靴技術者が靴のタイプに関わらず、供給した整形靴に関しても責任を持っていることを強調したい。

整形靴技術者と健康保険業者は、整形靴が、社会的にも医療的にも、現在そして将来も、必須の履物として確実に健康保険の対象に留まるようにする共同責任がある。オランダにおいては、このセミ整形靴のシステムによって当分の間は、健康保険対象として留まることが保証されている。

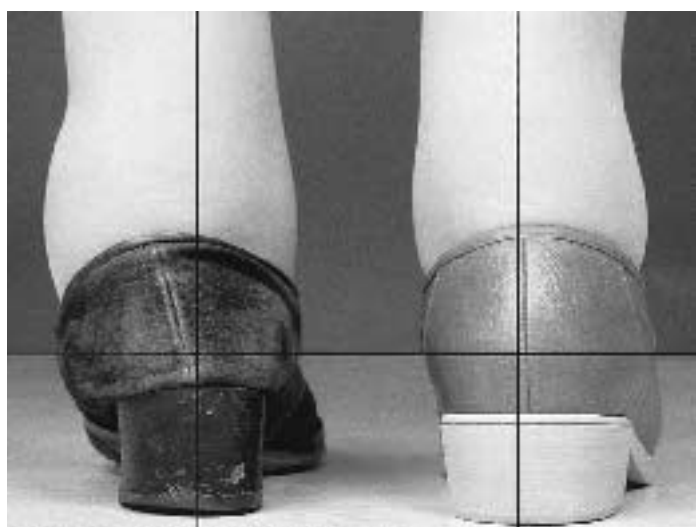


写真4 セミ整形靴 (右側)

[セミ整形靴の割合]

証明付のコンフォートシューズ（サポートシューズとも呼ばれ、健康保険取り扱い証明付の靴）の新しいコレクションが拡大し、セミ整形靴会社の製造目標は次の通りとされている。

○70%のオーダー整形靴

○30%のセミ整形靴

これらの目標を達成するために、いくつかの会社が交流している。これらの会社では、既にオーダーセミ整形靴とコンフォートシューズの割合に、かなりの変化がある。セミ整形靴の生産に関わっている整形靴製造会社における比率は、次のとおりである。

○60%オーダー整形靴

○40%セミ整形靴とコンフォートシューズ

[将来とポリシー]

このプロジェクトに関わっている政府、健康保険業者と靴製造業者が一緒になって追求している目的は、健全にフィットしたコンフォートシューズを加えた、セミ整形靴の新コレクションを更に拡大し、これらを健康保険扱いにすることである。靴製造業者は過去20年の間に大きく発展し、彼らは足に問題をかかえている人のためにぴったりとフィットするように、製作した多くの靴を市場に既に供給している。更に、これらの靴のいくつかは、セミ整形靴の基準を満たし始めている。

整形靴業界や患者からも、整形靴がもっとおしゃれな外観に気を配るよう常に強いプレッシャーがある。そこで整形靴業界や

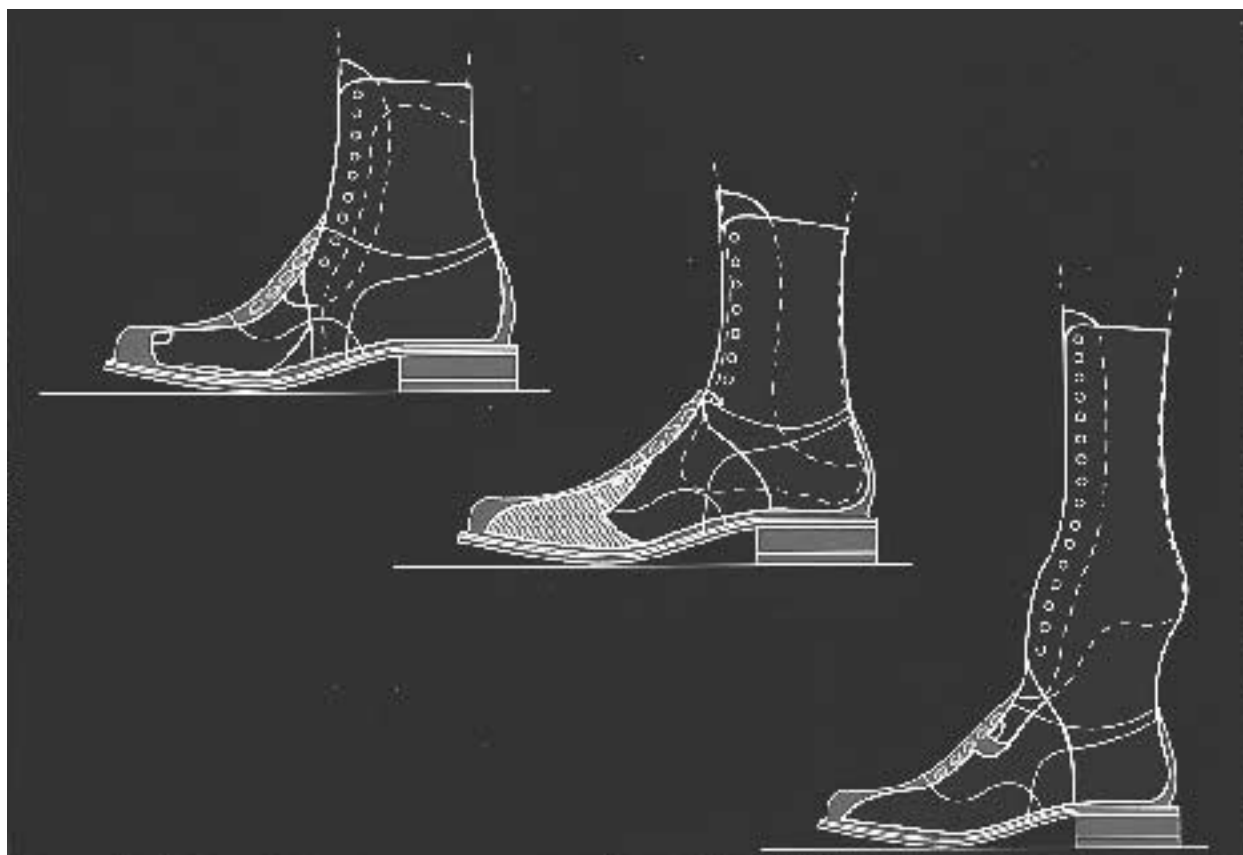


写真5 セミ整形靴

靴製造業者は、機能的で、ファッションナブルであるという要求を満足させるものを作ろうとしているので、セミ整形靴のコレクションに証明付コンフォートシューズを加えることができれば、このセミ整形靴のコレクションは、充実したものになるであろう。

このセミ整形靴に的確とされるラストと靴は、保険の扱いが可能かどうかを判定するため、選択基準に関するテストが行われる。このコレクションは、春と秋に変更でき、新しいファッショントレンドに因ることができる。

また、私たち整形靴技術者は、靴製造業者と一緒にセミ整形靴のコレクションを完成させ最新のものとするために、新しいラストと靴を開発する委員会を設立しようとしている。この委員会は、SVGBトレーニングセンターとともに、整形靴に必要な特別専門技術を教えるためのトレーニングを担当することになるだろう。

セミ整形靴は婦人用2.5～10サイズ、紳士用6～13サイズまでを、ハーフサイズで提供できる。どちらも、ウイズのバリエーションもある。これらの靴は、検査委員会の厳しい検査を受けた後、NVOS品質証明マークである特別スタンプによる証明を受ける。それまでは、健康保険業者の給付対象の靴に含めることは出来ない。

実際に使用する場合には、セミ整形靴に更に、あらゆる方法で手を加えることができ、的確に適合できる。小さな障害の場合は、しばしばセミ整形靴に手を加えないで適合できる。次の足の障害は、特にセミ整形靴が適応できる。

- 糖尿病
- リュウマチ

- 変形性関節症
 - 前足部への過度のプレッシャーがある足
 - 硬くて動きが制限されている格好の足
 - 外反足
 - 内反足
- (インナーシューとコンビで用いられる。)

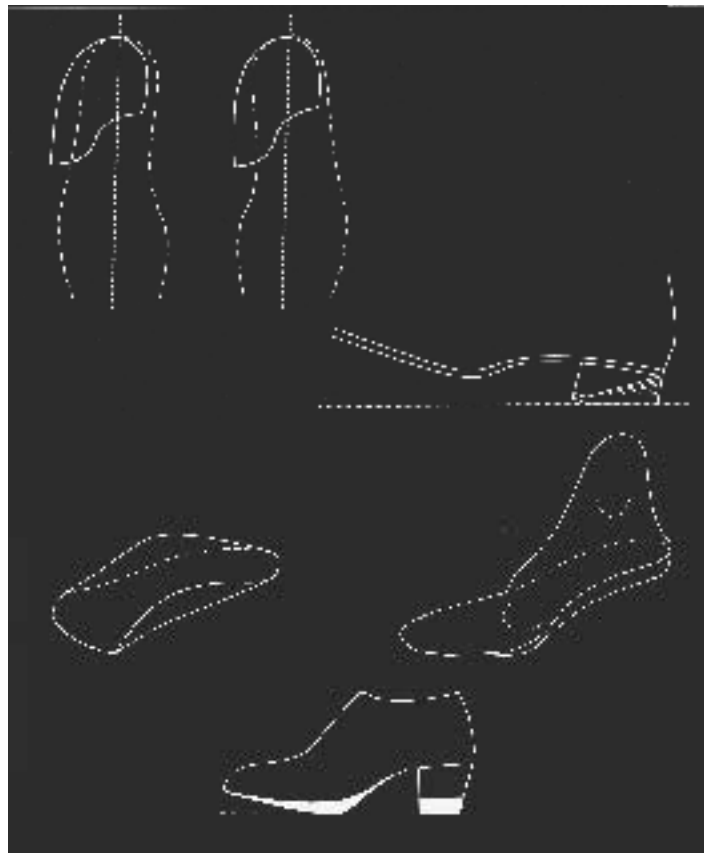


写真 6

ところで専門家のチームが、セミ整形靴の多様なラストを開発した。各ラストは、前述の障害がある足用にそれぞれ違った特徴を持っているため、患者の多様なグループに適正な履物を供給できる。このチームは、整形靴技術者・靴製造業者と健康保険業者から成り立っており、TNO（オランダ革と靴の研究機関）が科学的レベルで研究を行い、団体に協力している。セミ整形靴の開発と採用は、オーダーの整形靴から、セミ整形靴へのシフトを招き、コスト管理に影響を与えた。セミ整形靴の平均価格は、

オーダーのものより50%以上低く、ストックができる。セミ整形靴の納期は、調整を含めて3週間であり、オーダー整形靴は9週間である。

以上、IVO世界会議におけるオランダの発表を紹介した。日本では、基本的には既製品の整形靴は扱われていない。そのため、手作業で一般の靴の各部位を補正して、患者に適合させている。その労力と費用は、既製の整形靴で軽減できる場合が少なくない。整形靴による処方合理化のためには、患者にあわせて加工できる既製の整形靴が必要だ。その場合、オランダと同じく、障害の種類別のアイテムと大きさのバリエーションがあり、かつ患者に合わせて加工できるように、底とアッパーがユニット式になっている半製品のものが求められるだろう。また、患者の精神的な面でのケアも欠かすことができないので、ファッション性も要求される。

ドイツコンフォートシューズが既製品であるのに、整形靴扱いになっていることが問題になっている昨今ではあるが、日本にも加工調整できる既製の整形靴が求められ、それが保険適用できるような、法的な改善が求められる。同時に、靴業界には、医療関係者の意見を参考にした既製整形靴の製造を期待したい。

(なお、C.J.Rameau氏の発表原稿を本人の承諾を得て翻訳したが、一部説明が不足している語彙は筆者が加筆した。写真も同氏の提供による。)

訂正とお詫び

No.124とNo.125の拙稿に「シリーズ 足の機能に障害がある人の靴 ⑨、⑩」の見出しをつけていませんでしたので、訂正しお詫び申し上げます。